

事例6・類例 不適正な医薬品の選択によって起こったインシデント，アクシデント事例

関係者	内容	実例の結果	最悪のシナリオ
医師・歯科医師	アモバン<ゾピクロン>内服中の入院患者がベッド下に転落。患者はどのように下りたのか覚えていない。	当直医の診察を受けるが異常なし。	打ち所が悪く骨折から寝たきりに。
看護師・准看	解熱時頓用でアセトアミノフェンとジクロフェナクの2種が処方され、その後、前者は無効のため後者を使用すると指示されていたが、指示を見落とし。	他の看護師の指摘により正しくジクロフェナクを選択できた。	効果のないアセトアミノフェンを漫然と使用し、患者の全身状態が悪化。
複合	デパス<エチゾラム>3mg分3服用中の患者。昼食後ベッドサイドで転倒していた。過去に転倒歴（薬剤性かは不明）のある患者だった。	特に外傷はなかった。	打ち所が悪く複雑骨折から寝たきりに。
医師・歯科医師	インフルエンザの患者に外科医院の医師がデキサン<デキサメタゾン>等を投与したところ、アナフィラキシーショックにより死亡。	裁判となり、薬剤選択自体に合理性がないと判断され7,300万円の損害賠償命令。	
医師・歯科医師	早期胃がんに対してユーエフティ<テガフル・ウラシル配合剤>等を大量投与し骨髄抑制で死亡。	裁判となり、医師敗訴。	

【出典】

日本医療機能評価機構ヒヤリハット事例情報データベース (<http://www2.hiyari-hatto.jp/hiyarihatto/index.jsp>),
ナーシング 2003; 23 (11),

医薬品医療機器総合機構事例集 (<http://www.info.pmda.go.jp/info/idx-iryouanzen.html>),

日経メディカル編: 50の医療事故・判例の教訓, 日経BP社, 東京, 2004.